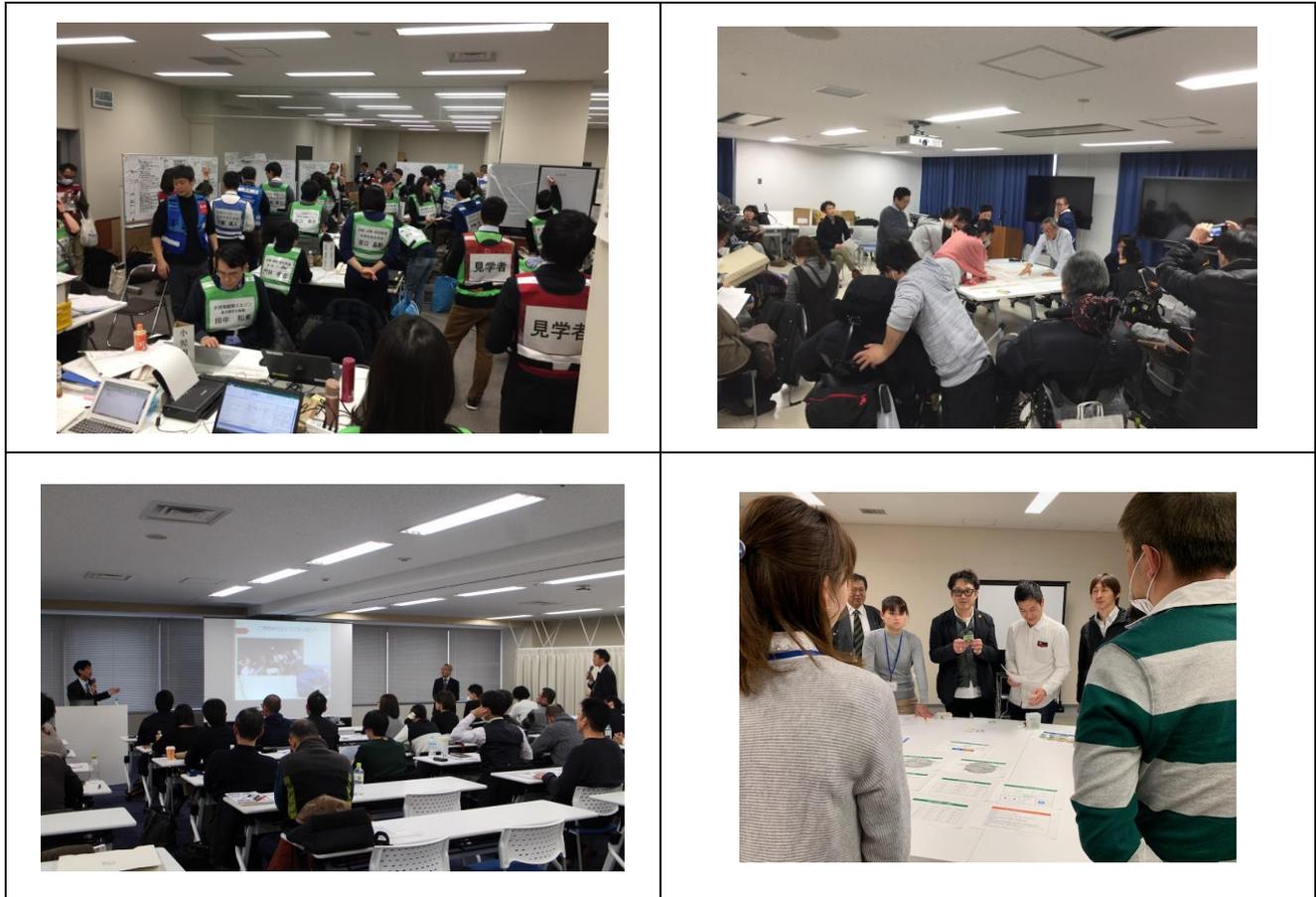


2018 年度活動助成 活動実績報告書

団体名	大阪府大規模災害リハビリテーション支援研究会
活動テーマ	被災地でリハビリテーション支援活動を行うための人材育成と組織作り



平成 29 年度の JR 西日本あんしん社会財団の助成で、1 年を通じて 10 回の研修会を開催し、受講者から好評を得て、引き続き研修を受けたいという声が大きく、以下の活動を行った。

1. 日本災害医学会が開発した BHELP を 2 回、熊本県理学療法士協会が開発した REHUG を 2 回（図右下）、静岡県が開発した HUG を 1 回開催した。
2. BCP（Business Continuity Plan）について、講師を呼んで講義を受けた。
3. 重度身体障がい者への支援も、昨年に引き続き、開催し、課題を抽出した（図右上）。
4. 大阪府庁で開催された防災訓練の本部活動に、JRAT の一員として参加し、本部の活動を学習した（図左上）。
5. 平成 30 年に発生した災害（大阪府北部の地震、西日本豪雨、北海道胆振地震）のリハビリテーション支援活動を聞き、成果と課題を検討した（図左下）。
6. 地域の勉強会（高槻・島本嚙下栄養研究会）にて、講演を行った。
7. 学会発表を通じて、広報活動を行った。

これらの学習を重ねることにより、避難所での活動、本部の活動、他職種の動き、などがイメージできて、災害支援が身近なものとなった。また最新で、より高度な知識（BCP、重度身体障がい者への支援）を得ることにより、適切な活動ができることの期待ができる。その上、年間 10 回の研修会を行っているうちに、人のつながりができ、災害時に共に活動できる仲間ができた。

実際に、大阪府北部の地震の際には、昨年度に研修を受けていたリハビリテーション専門職が、早期から活動を行い、避難者への直接支援を行った。さらに、平成 30 年西日本豪雨災害においても、岡山県真備地区での支援活動を JRAT として研修会を受講していたメンバーが赴き、避難所での現場活動や本部や調整部門での後方支援活動をリーダー的な存在で活動することができた。